



令和三年長月

城北中だより

城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

生徒数

1年	168名
2年	157名
3年	173名
特別支援級	8名
全校生徒	506名

コロナ禍で地球の未来について語ろう

校長 遠藤 敏恵

緊急事態宣言下、城北中学校の2学期が始まりました。夏休み前には多くの有識者が、都市部の人流増加と、デルタ株の蔓延に伴う、新型コロナウイルス感染症の感染者数の爆発的な増加を予想していましたが、残念ながらその予想通りの結果となってしまいました。生徒の皆さんには、8月26日の始業式でも、今一度、自分に厳しく、自分の身を自分で守ってください、とお願いしました。自分の身を守ることが、自分の大切な人の身を守ることに繋がります。校内では、毎朝の体温・健康状態記録表の確認と健康観察、手洗い、マスクの着用、密の回避、換気の励行、給食時の黙食、感染リスクの高い学校行事の延期や形態を変更しての実施等、より一層、感染防止に努めてまいります。また、希望者を対象とした授業のオンライン配信も始まりました。子供たちのために、城北中学校の全職員が一丸となってこの難局に挑んでいます。2学期も、保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

さて、このコロナ禍で、私たちは今まで以上に自分たちの周りで起こっていることに興味を持つようになったのではないかと思います。毎日更新される東京や全国の新型コロナウイルスの感染者数の推移や、ワクチンに関する情報、世界各地における感染状況など、外出を控えてテレビやネットを眺めていると、次から次へと目に入ってきます。コロナに関しては、ロックダウンやワクチン接種の普及等により、感染が下火になっている国もあれば、また新たな変異株が発見された国があったりと、根絶に至るには、まだまだ時間がかかることが予想されます。また一方で、国内情勢が不安定で、テロの恐怖に脅かされている国があったり、世界各地で起こっている気候変動に関するニュースも気になります。

この流れだけだと、果たして地球は大丈夫なのかと不安に思ってしまうのですが、コロナに関しては、その存在が確認されて間もなく、ウイルスの構造やヒトの細胞に侵入する経緯が解明され、それを予防するワクチンの開発が進み、約1年で接種可能な状況にまで至りました。また国際的な紛争や環境問題に関しても、国連のような機関で、国々の代表によって解決に向けて議論され、気候変動に関しては、地球温暖化を引き起こす温室効果ガスの増加（その中でも二酸化炭素の増加）が、その最大の原因の一つである、ということがわかっています。加えて、AIやIoTの技術革新は勢いを増して、従来人間によって行われていた労働の補助・代替が、AIやロボットへと進んでいます。

多くのことが目まぐるしく変化している今、果たしてこれらのことは、国のトップにいる人だけが考え、策を練っていれば済むことなのでしょうか。このような時だからこそ、地球の未来について語りましょう。10年後、皆さんがそれぞれどんな職業について何をしているか、想像してみてください。秋の夜長に、これから先自分はどのように生きていきたいか、考えてみてはどうでしょうか。

